

4年2組 児童 33名	社会科学学習指導案 きょう土のはってんにつくす 「アイヌの人たちの生活と文化」	12月5日（火）5校時 授業者：関本 勝幸
----------------	---	--------------------------

1 この学習で目指す子どもの姿

子どもたちは3年生で、札幌にはアイヌ語由来の地名が多くあることを学んでいる。「ナイ」や「ポロ」などの地名はアイヌ語であり、その意味についても学習している。しかし、アイヌの人々の実際のくらしや、その背景にあるコミュニティ、神への信仰や自然観までは学んでいない。

本単元では、わが国の先住民族であるアイヌの人たちが築いてきた歴史や文化、生活の様子などについて調べたり、考えを共有したり、具体物に触れたりしながら、理解を深めていく。

その中で、ただ過去の歴史事実としてアイヌの人たちを見つめるのではなく、それが今につながっていることや、アイヌの人たちの大切にしてきたものや暮らしの知恵、自然に対する考え方の素晴らしさなどに気付けるようにする。

現代に生きる子どもたちが、自分たちの生活と比較して考え、自然と深く関わり、自然を生かして暮らしていた昔のアイヌの人たちを共感的に理解することで、これからの自分の生き方に生かそうとする姿を目指し、学習を構成する。

2 単元の目標

- ◆アイヌの人たちの昔の生活や文化に関心をもち、意欲的に調べている。（関心・意欲・態度）
- ◆アイヌの人たちの衣食住や遊びについて調べたことから、自然を生かす知恵について考え、適切に表現している。（思考・判断・表現）
- ◆アイヌの人たちの生活や文化について必要な情報を集め、読み取っている。（技能）
- ◆自然と関わりの深いアイヌの人たちの生活や文化について理解している。（知識・理解）

3 課題探求的な学習を取り入れた授業の充実

単元の導入でアイヌ教育相談員の光野さんをゲストティチャーとして、アイヌ文様について切り絵を通して学ぶ。その他にも、民族衣装や民族楽器に触れることで、「アイヌの人たちはどのような暮らしをしていたのだろう」という子どもの興味・関心を高め、衣食住に関する疑問を解決していくことで課題解決への意欲を持続させる。

4 単元構成（7時間扱い）

時	子どもの思考・学習活動
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人たちの生活や文化について知ろう</div> ○アイヌ教育相談員の光野さんをゲストティチャーとして <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文様の切り絵 ・民族衣装に触れる ・民族楽器の演奏を聴く ※図画工作と教科横断的に扱う
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">もっとアイヌの人たちのことについて知りたい</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人たちはどのような物を食べていたのだろう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 自然のもの <ul style="list-style-type: none"> ・工夫して ・無駄なく </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> カムイに感謝 <ul style="list-style-type: none"> ・大切に ・とり過ぎない </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">神に感謝して無駄のないように食べていた</div>
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人たちはどのように暮らしていたのだろう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 自然のものを工夫して </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> カムイと共に自然と共に </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">神に感謝して仲間と協力して暮らしていた</div>
4	※本時 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どうしてオヒョウの皮を少ししかはがさないのだろう</div>
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人たちの子どもはどんな遊びをしていたのだろう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 投輪突きの射ち </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> イタドリの笛舟漕ぎ遊び </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">遊びの中から生活の知恵や技術を身に付けていた</div>
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">知里幸恵さんはどうして日本語でアイヌ神話集を出版したのだろう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 自分たちの文化を文字にして残す </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 多くの人にアイヌの文化を知ってほしい </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの豊かな生活や文化を後世に残そうとしたんだ</div>
7	○学習したことをまとめよう

5 研究の視点

視点1「学ぶ意欲を高める教材化」

本単元では、子どもたちのアイヌ文化への興味や関心を高めるために、導入場面にアイヌ教育相談員の光野智子さんに来ていただく。資料「アイヌ民族その歴史と現在」を基にアイヌ語について解説をしていただいたり、挨拶や簡単な会話表現などを教えてもらったりして、興味を深める。また、切り絵を通してアイヌ文様に親しみを持ち、美しさだけでなく、そこに込められた願いや意味も理解できるようにする。楽しみながら創作活動に取り組むことで、アイヌ文様の美しさに感心し、共感的に理解を深めることができると考えた。

本時ではアットゥシを作る時にオヒョウニレの樹皮をはいでいる写真を提示する。それまでの学びを生かし「アットゥシは大きいのに、樹皮を一部分しかはがさないのでは一着分には足りないのではないか」や「アイヌの人たちはサケ（カムイチュエプ）の時は神様に感謝し、無駄なく、骨や皮もすべて使っていたのに、なぜこんな中途半端なことをするのか」など、既習とのずれから、子どもの学ぶ意欲を高め、課題を生む。

視点2「学びを深める教師の関わり」

単元を通して、アイヌの人々の衣食住や文化について考えていくが、すべての時間において、アイヌの人々の自然に対する考え方や、すべての神に感謝し、自然と共に生きるという生き方を浮き彫りにする。

本時ではアイヌの人々にとって大切な木であるオヒョウニレを使ってアットゥシを作るアイヌの人たちの営みについて考える。アイヌ教育相談員の光野智子さんにお話をさせていただき検証の場面では、子どもたちの追究や話し合いの内容を価値付けることで、子どもたちの理解を深める場とする。

また、本時の最後の場面ではアイヌ語でオヒョウニレは「アツ」、川は「ペツ」であることを確かめ、厚別の語源は「アツペツ」であるという学説を紹介する（「アシリベツ」など諸説あり）。

自分たちが暮らしている地域も、昔はアイヌの人たちが自然と共存した場所だったという思いを共有し、学びを深める場とする。

6 資料について

本時の中心資料となるのはアイヌの人たちが着ていた代表的な衣装の一つであるアットゥシと、その材料となるオヒョウニレの木である。アイヌの人々はこのオヒョウニレの木の内皮の繊維を織ったもの（アットゥシ）を服にして着ていた。

本時はこのアットゥシを作るためにオヒョウニレの木の皮をはぐ写真を提示する。一部しかはがさないことの理由を考え、話し合うことを通して、アイヌの人たちのカムイへの敬意、自然と共に生きようとする姿を浮き彫りにする。また、検証の場面ではアイヌ教育相談員の光野智子さんに話をさせていただき、子どもたちの気付かなかった部分や、南側だけをはがしていたという話もエピソード的に取りあげていただき、理解を深める手だてとする。

※注：アットゥシを作る際にオヒョウニレの皮をすべてはがさずに南側の一部分だけをはがすのは一部のアイヌのみの風習であり、再生が難しいと判断した場合はすべてはいでいたこともあったという話もある。

今回は「アイヌ生活文化再現マニュアル織る一樹皮衣」（アイヌ文化振興・研究推進機構編）や「北の彩時記アイヌの世界へ」（計良光範・コモンズ出版）などでの記述を拠り所とし、児童に紹介する。本時の検証場面となる光野さんのお話の中で、すべてのアイヌがこうしていたわけではないかもしれないが、どのアイヌも、木の神に感謝し、皮を「いただく」という思いをもってはいていた、という解説を加えていただいた。

7 本時の目標

- ・アイヌの人たちがアットウシをつくるためにオヒョウの樹皮をすべてはがさずに残しておく理由を考え、適切に表現する。（思考・判断・表現）
- ・アイヌの人たちが自然を守り、未来に向けて自然と共存していこうとする思いを理解する。（知識・理解）

8 本時の展開（4/7）

